

出雲國
大濱湊
隱岐國
千波湊

〔吾妻鏡二十五〕承久三年七月廿七日庚戌上皇著御于出雲國大濱湊於此所遷坐御船○下
〔類聚名物考地理二十八〕千波湊ちぶりのみなと 隱岐國

〔太平記七〕先帝船上臨幸事

判官○佐々木潛ニ彼官女ヲ以テ申入ケルハ○中義綱ガ當番ノ間ニ忍ヤカニ御出候テ、千波ノ湊ヨリ御舟ニ被召、出雲伯耆ノ間、何レノ浦ヘモ、風ニ任テ御船ヲ被寄、サリヌベカラズル武士ヲ御憑候テ、暫ク御待候ヘ、義綱乍恐責進セン爲ニ罷向體ニテ、纏テ御方參候ベシトゾ奏シ申ケル、○中忠顯朝臣或家ノ門ヲ扣キ、千波湊ヘハ、何方ヘ行ゾト問ケレバ、内ヨリ怪ゲナル男一人出向テ、○中千波湊ヘハ、是ヨリ纔五十町計候ヘ共、道南北ヘ分レテ、如何様御迷候ヌト存候ヘバ、御道シルベ仕候ハント申テ、主上○後醍醐ヲ輕々ト負進セ、程ナク千波湊ヘゾ著ニケル、

〔日本書紀三神武〕戊午年五月癸酉、軍至茅渟山城、水門_{亦名山井水門}時、五瀬命矢瘡痛甚、乃撫劍而雄誥之曰_{多伽利辭}、此云都盧善能、慨哉大丈夫_{黎多棄}、此云子、被傷於虜手、將不報而死耶、時人因號其處曰雄水門、

〔古事記中神武〕於是與登美毘古戰之時、五瀬命於御手負登美毘古之痛矢串、○中從其地廻幸到紀國男之水門而詔負賤奴之手乎死、爲男建而崩、故號其水門謂男水門也、

〔古事記傳十八〕男之水門、神名帳に、和泉國日根郡男神社、_座和名抄に、同郡呼喚乎郷あり、○註是なり、日根郡は、和泉郡の南なれば、此も路次よく合ひ、但紀國とあるは傳の誤ならむか、○註又は古は紀國との堺まで男郷にて、猶古は此郷紀國に屬りしも知がたし、

紀伊水門

神功九

〔日本書紀九〕時皇后、聞忍熊王起師以待之、命武内宿禰懷皇子、横出南海、泊于紀伊水門、皇后之船